

平成19年3月20日(火) 岐阜経済記者クラブ配付資料

担当課(室)	担当者	電話(内線)
(財)岐阜県産業経済振興センター 情報支援部	若林	058-277-1082

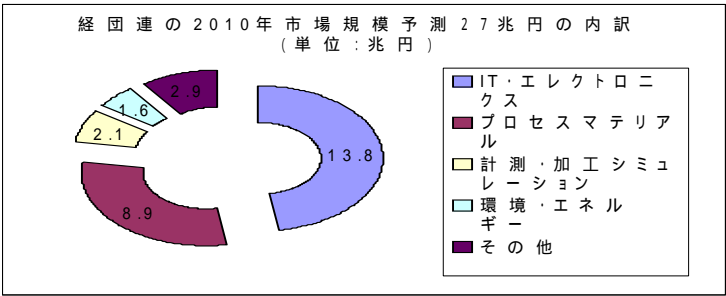
岐阜を考える「ナノテクノロジー」について

調査研究の趣旨

- 産業革命以降、科学技術の進歩は微細化の歴史と言ってもよく、精密化への追求はとどまるところを知らない。最近、「ナノテクノロジー」という言葉をよく耳にするようになり、食品や化粧品といった身近なものにもナノオーダーの製品を目にするようになった。
- しかし、一般的には「ナノテクは難しい」「自社には無縁である」と考える中小企業経営者が多いのも事実である。そこで本調査研究では、そういった中小企業経営者の方を対象に「わかりやすさ」を第一として、「ナノテクノロジーとは何か?」「県内外の企業の事例紹介」という2つのテーマから「ナノテクノロジー」を考察した。

調査研究結果のポイント

- 「ナノテクノロジー」とは
ナノメートル(ナノは10のマイナス9乗)とは原子や分子の大きさのレベルである。1ナノメートルの分子を1ミリメートル移動させるということは、10センチメートルのボールであれば、岐阜羽島駅から京都駅に移動させることと同じ比率である。このような、極小の精度で繰り広げられる技術が「ナノテクノロジー」である。
- 「ナノテクノロジーの市場規模」について
2010年には27兆円に達するという予測(日本経団連)がある。また、その応用分野もIT・エレクトロニクス、素材・材料、環境・エネルギー、バイオ、計測といったすべての分野にわたっており、どの企業にも関連する技術である。



- 「研究から産業化までの障壁」について
ナノテクノロジーの歴史はまだ始まったばかりと言ってもよく、「研究段階」から「開発段階」「事業化」を経て「産業化」に至るまでさまざまな障壁があると言われていいる。事例企業がどのように問題を克服し「産業化」に成功したか考察した。

担当者コメント

- この調査研究において、「ナノテクノロジー」には二面性があると感じた。つまり「学問としてのナノテク」と「産業としてのナノテク」があり、別次元のものと感じたのである。行政は、この二つのナノテクの融合を図る使命があり、その役割を期待されていると思われる。今後、県内中小企業が自社の技術を進展させナノテク企業の仲間入りを果たされることを期待する。